## 追加 人と動 展示しています! 物 の骨を

部変更して、開館しています。 らしを中心に構成しました。 青谷上寺地遺跡での人々の暮 た動物たちの骨を追加展示し、 上寺地遺跡周辺に生息してい 上寺地弥生人の人骨と、 · 月 16 今回の展示替えでは、 青谷上寺地遺跡展示館は 日から、 展示内容を 青谷

## 弥生から時 超えて

## 青谷上寺地遗跡

を紹介しています。 系弥生人と呼ばれることなど 寺地で見つかった人々が渡来 を追加するとともに、 の残る人骨と病歴を示す人骨 青谷上寺地弥生人の殺傷痕 青谷上

では、 出土していることなど、 さまざまなイヌが飼われてい ました。3頭の頭蓋骨を展示し、 また、 イヌの骨を追加展示し 山陰柴犬に似た骨が 動物たちのコーナー まと

まって見つかった全身の骨格

合は、 時代にイノシシを家畜化して 見ながら想像してみませんか。 と弥生時代のイノシシ2頭と の展示では、 を展示して紹介しています。 かけてください。 いたか」の謎について、実物を 比較展示しています。「弥生 なお、 さらに、イノシシの頭蓋骨 お気軽に事務室に声を 解説を希望される場 現在のイノシシ



まとまって見つかったイヌの全身骨格

相え 碧き秋 の風 の元へと舟を漕いでいく。 ば、 激流逆巻く早瀬を渡って、 萩の根元の葉もそよぐほど 天の川の白波をかき分け、 年もの間恋焦がれた彦星 冴えた夜空を見上げれ ・吹 うきな び く旧 暦七夕。 織姫

家持さんは、

すでに秋の収穫に

う神事なのだ」と教えてくれる

力比べをして、

秋の稔りを占

に相撲の節会を行う。いくのだ。宮中では、 思議に思い、 ぜ日本では、彦星が小船に乗っ て逢いに行くのでしょう」と不 語だな」と嘆息する家持さんに、 って彦星に逢いに行くのに、な 中国では、織姫が鵲の橋を渡 妻問い婚なので男が逢いに 切なくさせる悲恋物 私は問うてみた。 七夕の 精霊同 昼

日本の七夕の 棚で機を織る

江戸時代の七夕祭り

棚機つ女の話が元々あって、日本風に 改めたといわれています。

> くて、 「大和撫子だったのですねと家持さんは寂しげに呟く。 して川に流されるな」と微笑み 夏痩せによいが、鰻を取ろうと と独り感心していると、 き妾(側室)の笑顔だ。撫子の る。秋になると思い出すのは亡 思いを馳せているようだった。 遣う家持さんは、 ながら、少し夏痩せした私を気 ように心優しき女性であっ 色の撫子が、笑むように揺れた。 人であった。続く…。 人。自ら館の庭先に蒔いた淡紅 万葉クイズ 「見ているだけでは物足りな 家持さんは花草花樹を愛する つい撫でてしまいたくな やはり優し 「鰻は

(先回の問題)

文中の土くれで何を作っていた?

土馬(どば)

藤袴、朝顔と何の花? (今月の問題) 撫子、

答えは10月1日号です。

(文=因幡万葉歴史館主任学芸員 中山和之) 年に